

第3回 教育支援コーディネーター・ミーティング（報告）

“授業支援”を提案できるコーディネーターとは ～二つの小学校における実践事例から支援のプロセスを学ぶ～



各地域で活動する教育支援コーディネーターのスキルアップとネットワークづくりのために、研修会「教育支援コーディネーター・ミーティング」を開催しています。

平成25年度第3回の研修は、平成20年度当初から[学校支援ボランティア推進協議会事業](#)に取り組んできた江戸川区教育委員会にご協力いただき、江戸川区総合文化センターを会場に、開催させていただきました。

コーディネーターは、担当する学校が求める多様な学校支援のなかで、例えば学習支援、環境整備、学校行事の運営支援などの調整をし、支援を具体化しています。これらの支援のなかでも、“授業”の支援については、「総合的な学習の時間」などに、コーディネーターが関わりながら外部資源を導入しているケースがあります。

今回のミーティングでは、コーディネーターによる授業支援の実践事例、その具体化へのプロセスから学ぶ機会として開催しました。

■開催日時、開催場所

平成26年1月23日（木） 14時～16時30分
江戸川区総合文化センター 会議室

■対象

教育支援コーディネーター（学校支援コーディネーター、地域コーディネーター）、
区市町村学校支援地域本部事業担当者 等

■参加者

港区（1）、文京区（4）、大田区（4）、杉並区（2）、北区（1）板橋区（1）、江戸川区（5）
調布市（1）、日野市（1）、多摩市（1）
計21人

■テーマ

“授業支援”を提案できるコーディネーターとは
～二つの小学校における実践事例から支援のプロセスを学ぶ～

■プログラム内容

進行：香月よう子さん（きてきて先生プロジェクト代表）

□実践事例報告：

レポーター 水木優香さん（文京区立駒本小学校・板橋区立成増小学校 地域コーディネーター）

□意見交換&質疑応答：

助言者 伴野博美さん（杉並区学校支援地域本部実行委員会チーフコーディネーター）

□実践事例報告

文京区立駒本小学校のコーディネーターである水木さんは、現在板橋区立成増小学校においてもコーディネーターを担っています。24年度から駒本小学校、今年度は成増小学校でも、早稲田大学国際教養学部の短期留学生に、学生ボランティアとして、それぞれの小学校のねらいに沿った、授業支援活動を具体化しました。コーディネーターにとって「授業支援」は、「どこから手をつけたらよいかわからない」といった声も聞かれる分野です。今回は「授業支援」の実際から学ぶこととし、水木コーディネーターが、学校からの依頼の、どこに着目し、なにに配慮しながら、先生方と授業の“めあて”を共有し、「授業支援」を具体化したのかを、以下の3つのパートに分けて、丁寧に報告をしました。

パート1 授業支援活動の位置付けについて

駒本小学校を例に、「地域コーディネーター」が関わる学校支援の全体像（教育目標を踏まえた「授業支援」「校内環境整備」「通学路安全支援」「学校行事支援」「放課後環境支援」の体系）のなかで、「授業支援」の位置づけについて説明がありました。また、担任との授業の“めあて”を確認する打合せのタイミング等、コーディネーターとしての日頃のスタンスやノウハウについての解説がありました。

これらを踏まえ、以下の2つの実践事例について、報告がなされました。



パート2 文京区立駒本小学校の事例

5・6年生の「外国語活動」に、英語が話せるボランティアの継続的な導入について、学校からの相談

授業の現状把握→保護者・地域でボランティア募集の可能性検討→“めあて”を教員と確認〔児童が進んで英語を話したいと考える環境づくり〕→方法としての留学生への協力依頼の提案→「早稲田大学国際教養学部事務局」への依頼と調整・目的の共有→実施上の配慮・工夫

以上の流れを、コーディネーターとしての思考したこと、実際の果たした役割や動きが、報告されました。

パート3 板橋区立成増小学校の事例

一方、成増小学校においては、3年生の「国際理解教育」における外国人講師に関する学校からの相談

ねらいの確認〔多様な文化を学ばせたい〕→多様な国籍の留学生ボランティアとの出会いを提案→さらに相互交流への動機付けとして日本の文化を児童が留学生に伝える手段として、以前体験した「昔遊び」の活用で教員と合意形成→意図を「早稲田大学国際教養学部事務局」へ伝え調整→実施上の配慮・工夫

以上の流れを、教員との「授業イメージの共有」のプロセスを中心に、報告しました。

同じ大学の学部で協力依頼を行い、異なる導入とした2つの事例を聞き、経験のあるコーディネーターには普段は特段意識していないプロセスをあらためて認識したと言います。また、「授業支援」の経験のないコーディネーターにとっては配慮すべき具体的なポイントと実際の流れに触れる貴重な機会となりました。

□意見交換



実践事例報告を踏まえ、地域の異なるコーディネーターと事務局担当職員とが、グループ毎に意見交換です。



グループ毎に話された内容を発表して、全体でシェアしました。

□質疑応答・まとめ



実践事例報告に関しての質問を、テーマごとにグループ分けし、回答しました。



グループ発表でも問題提起された「『授業支援』におけるコーディネーターのスタンス・役割」が、最後にまとめのテーマとして取り上げられました。

学校の最もよき理解者であり、地域や社会との橋渡し役である「コーディネーター」が、先生方と“目標”“ねらい”を共有することの重要性を再確認しました。

参加者のプログラム全体を通じた感想より

【教育委員会事務局】

・コーディネーターの方々の抱える、具体的な悩み等が聞け、勉強になりました。コーディネーターをするうえで、先生と授業の目的を共有することが大切だと改めて思いました。

【コーディネーター】

・日頃から管理職、教員との交流、ニーズの汲み取りが必要だと思いました。

・コーディネーターの立場が良くわかりました。学校とどのようにかわり、事業内容を設計していくのかヒントをたくさん頂きました。

・初めて参加させていただきましたが、他区の方々のお話も聞くことができましたので、大変、興味深く、良い会だったと思います。